

畑 陽一郎(はた・よういちろう)先生

一般社団法人日本レコード協会 理事

昭和60年3月 東京電機大学工学部電子工学科卒業

昭和60年4月 レーザーディスク株式会社 入社

(現 ジェネオン・ユニバーサル・エンターテイメントジャパン合同会社)

平成9年2月 社団法人日本レコード協会 入社

(現 一般社団法人日本レコード協会) 技術部

平成15年1月 同 法務部課長

平成20年1月 同 情報・技術部部长兼法務部担当部長

平成22年4月 同 事務局次長兼管理部部長兼情報・

技術グループ長

平成23年5月 同 理事(法務・管理担当) (現在に至る)



【参考ホームページ】日本レコード協会HP <http://www.riaj.or.jp/>

### 〈講義概要〉

本講座の寄附団体のひとつである一般社団法人日本レコード協会の理事畑陽一郎氏が、著作権法改正と音楽利用拡大に向けた取組みについて講義を行った。

講義ではまず、世界の音楽ソフト市場や日本の音楽配信市場の現状について詳細なデータを用いて説明。その後、本年10月1日に施行される「私的違法ダウンロードの罰則化」について、分かりやすい資料を提示しながら、法改正の背景や目的、罰則の対象となる行為などを具体的に解説した。また、音楽市場に大きな影響を与え続け、深刻化する違法ダウンロードの問題を指摘し、法的措置や広報・啓発活動などの様々な取組みを紹介した。

さらに、違法ダウンロードの根絶や「音楽のユーザビリティ拡大」のために開始された定額制音楽配信サービス、クラウドサービスなどについて説明し、手軽に楽しく音楽を利用できる環境づくりを強化していくことが重要であることを示した。

最後には、著作権教育の取組みとその重要性について言及し、音楽文化を守り、音楽産業を発展させるために「音楽創造のサイクル」を維持することが大切であることを訴えた。学生は、分かりにくい著作権法改正や音楽産業の最新事情について理解を深める機会となった。

## 〈受講生の感想〉

改正著作権法、または違法ダウンロードについて、さらに理解を深めることができた。著作権の重要性を訴える広報・啓発活動や、著作権教育がいかに関わりを守りながら重要なものか分かった。パッケージでの音楽ソフト市場が世界一の現代の日本にとって、著作権がいかに関わりながら大切な権利であるかを改めて教える必要があるのではないだろうか。

立命館大学・産業社会学部・2回生

いくつかのパターンで合法か違法かの説明を聞くことができ、分かりにくかった著作権法の理解が少し深まった。著作権法改正によって、デジタル配信サービスを提供する会社が、私たちがより音楽を手に入れやすくなる環境をつくらうとしている動きがあるということが分かった。著作権教育の話が出ていたが、とても重要なことだと思った。

立命館大学・映像学部・3回生

今日は著作権改正について詳しく知ることができた。日本だけでなくアメリカ、イギリスなどの音楽利用の違反についても知ることができ、日本との違いも理解できた。私的違法ダウンロードの防止に向けて、エルマークの普及が行われていることが分かった。これからさらに普及していったらいいと思った。

立命館大学・産業社会学部・2回生

日本の音楽業界が現在どのような状況なのかが分かりました。音楽は心を込めて音楽を作っている人がいて、様々な人が関わって私たちの元に届いているということを実感しなければならぬと思いました。私たち学生1人1人が音楽ダウンロードのマナーとルールをきちんと理解することが必要だと感じました。

立命館大学・法学部・3回生

この授業を取るまでは著作権問題についてあまり考えたことはなかった。著作権について詳しく知らない人が多いと思う。特に中高生などの若い人は違法だと思っていない人が多いのではないかと。何をしたら違法でどこまでが違法でないのかを分かりやすく教育したり、国民に啓発する活動をテレビやメディアも駆使して、さらにやっていく必要があると思った。

立命館大学・産業社会学部・2回生

著作権法改正は音楽の価値を守るために大切なものだったと思う。メディアの発達で誰もが情報を送受信できる現在、発達すればするほど情報の扱いに1人1人が責任を持たなければならない。もっと人々に何をどうしたら違法になるのかを分かりやすく示す必要があるし、違法になるかどうかの判断の基準をもっと分かりやすく定める必要があると感じた。

立命館大学・産業社会学部・1回生

